

データローミング設定に伴う追加検討について 論点整理(案)

令和6年10月2日
検討作業班端末等タスクグループ
事務局

- 第1回端末等タスクグループにおいて、TCAより、フルローミング方式において、利用者による設定変更や、端末依存なく、救済網でデータ通信が使用できるようにすることを非常時における事業者間ローミング対応端末の機能要件として明確化することが望ましいとの意見があった。
- これに対し、利用者による設定変更を要さず、自動的に切り替わることが利用者の負担が少なく、望ましいとの意見があった一方、設定と端末の挙動が不一致と利用者に認識されるおそれや、誤課金のおそれ、開発規模に関する懸念が示された。
- 利用者が行う設定操作については、検討会第2次報告書においても「非常時に利用者が慌てずにローミングを受けられるようにするためには、設定操作を抜本的に簡略化できる解決策を模索する必要がある」とされていることを踏まえ、技術的な制約が無い限り、本要件は満たすべき事項と考えられるのではないか。
- 具体的な実現方法については、利用者の利便性や、対応に要する費用・期間のほか、上記懸念事項を踏まえて、端末ベンダや携帯電話事業者を中心に引き続き検討を行い、結論を得ることが適当ではないか。

主な意見

- 要件追加に賛成。ユーザの負担が少なく、自動的に切り替わることが望ましい。一方で、端末に依存する機能であり、技術的に対応可能か。
- ユーザにとっては、普段から「データローミングON」にし続けることにも抵抗感があるだろう。設定変更を要さない形がユーザにとってもありがたい。
- 「データローミングOFF」なのにローミングするというのは違和感がある。ON、OFFとは別に、「災害時の事業者間ローミングのみ行う」というような第3の選択肢を設ける、というような方法も考えられる。
- 設定と端末の挙動が不一致となるのではないか。
- 誤課金のおそれもあると考えられるので、ネットワーク側のローミング時の挙動を把握したい。
- 機能を増やすことになり、開発規模も相当程度となることを懸念。

検討を要する事項(案)

- 当該事象が発生する要因の特定
- どのような対応方法が考えられるか。
(端末、OS、ネットワークの対応の可能性)
- それぞれの対応策が要する費用・期間 等